

行動援護ネットワーク 職場交換研修に参加して



村瀬敬軌

パーソナルサポートセンターぽけっと

NPO 法人ひなた・きどきどこ 2 日間の日程で参加。職員間での業務内容の確認については細かくデータで管理、修正しやすいように週間の予定をホワイトボードで見やすい形式で作成していた。また、職員のプライベートにも気を配っていて、要望は受け付けることを意識されていたが、職員の休日に関しても保障する仕組みとして職場環境が素晴らしいと率直に感じた。

事業所と生活介護事業所との引継ぎに同行し、課題だと思うのが、同じ法人なら利用者の事を把握していたり、情報が聞けたりする環境があり正直細かい引継ぎがなくても情報交換ツールや馴染みのある職員から情報を引き継ぐことが出来る。事業所が別々なことが当たり前で、引継ぎする際も、その日の細かい様子については、「落ち着いてました。〇〇行きました。少し調子悪いです」と簡単なやりとりで終わってしまうことが職員によってみられる。また、在宅の方だと親御さんと事業所間でのやりとりは連絡ノートや電話でのやりとりが主となるが、ヘルパーが事業所とご家族との連絡帳を見る機会もほとんどないので、細かな情報は必要不可欠になる。些細な事でも情報共有する事でサービス入る側としては安心してサポートが出来ると感じた。行動援護のサービスに同行させていただき親御さんとの引継ぎの場面では、凄く丁寧に流れにそって、その場面が想像できるかのように

細かく説明していることが当たり前なんだと再認識できたし、日々の事業所の職員、GHの職員との引継ぎを見直すいいきっかけとなった。

2 日目はたてっちケアサービスの職員の方と行動援護サービスに同行させていただき、事前に利用者の方の情報を丁寧に説明していただき、出来るだけ情報を得る事に専念した。普段はGHの利用者の方（高齢層）の方と関わる事が多いので若年層の方と触れ合う機会が少ない自分にとっては新鮮であった。サービスに入らせていただき、一緒に運動する機会があり、QOL の向上のため、数か月前から機能を高める支援を実施していると聞き、「無理に出来ない事はしないほうがいい」と大半意見が多いと思うが、そのご家族、ご本人にとって少しでも楽しんでもらうために出来ることから始めていくことは、その方にとっての暮らしや余暇の充実につながってくると思った。私が関わっている方達にも出来ることは沢山あると思うが、色々な職員が関わるので、自分本位ではすぐには改善出来ないが、改善するために色々な意見を出し合い、その方にとって何が必要なのか「何が楽しい、幸せなこと」なのかを常に追求していくことを意識していきたいと改めて振り返ることが出来た。引継ぎといっても色々考えられるが、体調や行事（季節）等の要因があり、調子の有無も変わってくる中で、事業所間での

連携は必要不可欠であると思う。違う会社だから顔を合わせる機会はほとんどなく、電話やメールで連絡が当たり前となっているが、2 ヶ月に一回でも担当者会議を開くだけで、コミュニケーションにも繋がるし

その方の日頃見えない部分の共有にもつながるので、もっと事業所間での連携について今後は意識していきたいと感じた二日間でした。